

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「漢字の形と音・意味」 教材名「漢字の形と音・意味」

2 単元の目標

漢字の由来、特質などについて理解することができる。（〔知識及び技能〕(3)ウ）

漢字の共通する部分と音・意味の関係を調べ、例外も含めて確かめる学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①漢字の共通する部分と音・意味の関係を調べ、例外も含めて確かめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

漢字の共通する部分と音・意味の関係を調べ、例外も含めて確かめる。この教材では、漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

教科書で扱う既習漢字を部品カードに分け、正字の見本で位置と大きさを確かめる。独自例「木」と木へんの字を比べ、存在しない組合せは造字と区別する。想定する難しさは、漢字を左右の真ん中で機械的に分ける、同じ部品なら意味も完全に同じだと決める。評価では、漢字の由来、特質などについて理解しているかを、漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 既習漢字の共通部分を見付け、辞典で音と意味を確認する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○既習漢字の共通部分を見付け、辞典で音と意味を確認する。共通する点と当てはまらない点を整理し、文の中で正しく使う。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

漢字の由来、特質などについて理解することができる。（〔知識及び技能〕(3)ウ）

(2) 学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「形が似た部分をもつ字は、音や意味もいつも同じでしようか」 【めあて】漢字の共通する部分と音・意味の関係を調べ、例外も含めて確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じへんでも別の字になる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「形が似た部分をもつ字は、音や意味もいつも同じでしようか」 既習漢字の共通部分を見付け、辞典で音と意味を確認する。共通する点と当てはまらない点を整理し、文の中で正しく使う。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じへんでも別の字になる。 ・左右の部分の大きさが同じではない。 ・意味に関わることもあるが辞書で確かめたい。	教科書で扱う既習漢字を部品カードに分け、正字の見本で位置と大きさを確認める。独自例「木」と木へんの字を比べ、存在しない組合せは造字と区別する。 想定する難しさ：漢字を左右の真ん中で機械的に分ける、同じ部品なら意味も完全に同じだと決める。 評価では、漢字の由来、特質などについて理解しているかを、漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 漢字の由来、特質などについて理解している。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・意味に関わることもあるが辞書で確かめたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「形が似た部分をもつ字は、音や意味もいつも同じでしょうか」。中央は、漢字の構成の図、同じ部分をもつ字の例、意味や字形を確かめた自作文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

